

## ロジャースの「教師としての姿勢」

～教師であることのポイント～

(Client-centered Therapy: *Its Practices Implications, and Therapy*)

(1)成長を続け、学習している人の内側に私は入ることができるでしょうか。私は批判的な態度にならないで、この世界を理解することができるようになるでしょうか。

(2)私自身、このような若い人々との関係の中で真の人間となり、共に学ぶことができるような、心を開いた、自由に表現しあえる相互関係をつくることに賭けることができるでしょうか。このような若い人々との集中的グループ関係の中で、私はあえて自分自身になることができるでしょうか。

(3)私は、個人一人ひとりの興味を見つけ出し、それぞれが好きなようにその興味を追求していくことを認めることができるでしょうか。

(4)私は、若い人びとが自分で最も大切にしているもの——自分自身と自分を取りまく世界について、大きく目を開き、粘り強く激しく好奇心をもやすこと——を、持続することに援助できるでしょうか。

(5)人間や経験や書物といったあらゆる種類の資料——それは彼らの好奇心を刺激したり関心を高めたりするものですが——に若い人が触れられるようにする場合、私は創造的になりうるでしょうか。

(6)創造的な学習や活動の前触れともいえるべき、奇妙なまとまりのない考えや、激しい行動や表現を、私は受容し育てることができるでしょうか。このような創造的な考えを生み出す、時には風変わりな人格の持主を受容することができるでしょうか。

(7)若い人びとが統合された人間——感情が知性に、知性が感情にゆきわたり、そしてその表現が全人の表現となるように私は援助できるでしょうか。

もし、何か奇跡でも起こって、私がこれらの質問のほとんどに「イエス」と答えることができるならば、私は真の学習の促進者（ファシリテーター）であり、若い人びとの大きな可能性をひきだすお手伝いができるだろうと信じています。

（カール・ランソム・ロジャース）